

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターあすいろ		
○保護者評価実施期間	令和7年2月5日	～	令和7年4月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	63	(回答者数) 47
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日	～	令和7年2月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年3月 1日	～	令和7年3月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 38
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的な職員がいるため、保護者、本人、訪問施設からの疑問や困り感に対して専門的な視点から説明が出来る。	事業所で定期的にケース検討会など行い、多職種からのアドバイスももらっている。 困り感に対して、その状況だけをアセスメントをするのではなく、家庭などの背景もしっかりとアセスメントしながら支援内容を検討している。 訪問施設の要望に合わせてフィードバックの方法を変えている	継続的にケース検討を行い、多職種との連携を図って、支援計画の充実と、実効性のある内容、実行できる各スタッフのスキルアップに取り組んでいく。
2	ご家族様との連携を重視し、訪問時の活動の様子や出来事、成長を共有できている。	連絡アプリの活用し訪問後はすぐに情報共有をしている。また、連絡アプリだけではなく、電話やメールも活用し共有している。	本人やご家族様と定期的な面談を行い、本人の想いやご家族様の想いがより反映できる支援内容になるように図っていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	時期によって対象者の訪問頻度が減る事あり、保護者に理由を共有されていないことがある。	契約の時に保護者の方には説明しているが、その時のみ説明になっているため、頻度が少なくなる場合は随時説明していく。	4月は訪問先への挨拶や本人が集団に適應して落ち着いた時など訪問の頻度が減るため、連絡アプリや電話やメール等で訪問頻度が少なくなる前月には説明していく。
2	訪問施設との連携不足で求めている支援内容になっていない場合がある。	訪問を行った際は訪問先へフィードバックを毎回行っているが、コミュニケーション不足のため、施設側の意見が汲み取れていないことがある。	モニタリング会議やフィードバックの時間以外にも電話やメールなどを活用し、支援の方法などについて先生と細目に相談しながら対象児にあった支援を検討していく。
3			